

緑豊かでゆとりと潤いのある快適な環境と美しい景観の創造をめざして



日造協ニュース

2018.2月 通巻 第527号

Japan Landscape Contractors Association NEWS

発行：一般社団法人日本造園建設業協会 編集：広報活動部会 <http://www.jalc.or.jp>
 〒113-0033 東京都文京区本郷3-15-2 本郷二村ビル4階 TEL:03-5684-0011 FAX:03-5684-0012



鏡開きの後、乾杯に先立ち挨拶する藤巻司郎（一社）日本造園建設業協会会長

集いは、（一財）日本造園修景協会の佐藤忠継常務理事の進行で、冒頭、世話を代表し、富田祐次（一社）日本公園緑地協会会長が、「今年は明治になってから150年。来年は改元という節目の年であり、こうした時代の変わり目に新しいものがいろいろと見えてくるのではないか。今日は造園界の様々な方にお集まりいただきており、会場の皆さんと情報交換を行い、造園界が一体となって新しい時代に向かっていければと思っています」と挨拶した。

次いで、学界を代表して、横張真（公社）日本造園学会会長が、「年末のクラシック音楽の歴史を取り上げたTV番組で、18世紀後半のハイドンやモーツアルトが活躍している頃、王侯貴族に仕える階級は、音楽家が3番目で1番は料理人、2番目は庭師でした。しかし、その後の歴史を紐解くと、料理や音楽に比べて、庭の調子はいまひとつです。料理にはレシピが有り、音楽には楽譜があり、正確に伝えることができ、同時に革新を積み重ね、その中に伝統があったように思います。新しい年を迎えることを楽しみ造園界も革新をしていかなければならぬと思っています」と挨拶した。

公園緑地の効果・効用を最大に高める

国土交通省からは、町田誠国土交通省都市局公園緑地・景観課長が、「昨年は、都市公園法などの法改正を行いました。一言で言うと公的セクターだけでなく、民間の方々の力を借りしながら、緑や公園の効用や効果を最大限に高めていこうとするものです。特に都市公園では、収益の上がる施設に入ってきていただき、その収益を公園に還元しながら、より良いサービスや再生・整備を進めています。新しい方が入ってくると、これまでのパンをさら



横張真会長

に多くの人で分けるので少なくなってしまうと思われる方もいらっしゃると思います。しかし、パンを大きくしようと言う考えです。造園に関わる方々の努力で、現在の12万haの公園ストックがある訳ですから、造園の方々がコーディネートをしたり、その中心になって立ち回って欲しいと思っています。また、今日は造園人の集いで多くの方々がお集まりになっていますが、公園の新しい価値を高める方々は業界の外から来る可能性もあります。緑や公園を使いこなすことに長けた方々もいらっしゃいます。この集いもどなたでも参加できますし、こうした方々とともにパンをより大きくしていきたいと思います。また、新しい国直轄の公園整備にも昨年から着手し、海外の日本庭園の修復など、造園ならではのプロジェクトを進めています」と述べた。

国立公園の価値や利用を高めたい

環境省からは、亀澤玲治自然環境局長が、「昨年は鳥インフルエンザにはじまり、ヒアリ対策に追われた年となりましたが、今年はこうした騒ぎのない1年であって欲しいと思っています。現在、国立公園満喫プロジェクトに取り組み、2020年までに外国人旅行者を2015年の2倍に当たる約1,000万人とする中で、34ある国立公園のうち8公園で重点的な取り組みを進め、3年になります。この成果の一端として2つを紹介しますが、1つは霧島錦江湾国立公園におけるホテルの誘致であり、滞留時間や消費活動の増大を図るべく、近く民間事業者との対話を2020年には開業の予定です。もう一つは、環境省のビズターセンターなどの民間開放で、伊勢志摩国立公園において展望台に民間のカフェを誘致し、今年8月のオープンを予定しています。これらはほんの一例であり、さまざまなアクティビティの充実も図っています。関連する予算は、今年度110億円で来年度予算案は117億円まで伸びることまでできました。環境省は保護・規制のイメージが強かったと思いますが、しっかりと保護しながら、より多く

亀澤玲治局長



町田誠課長

法定福利費の内訳を明示した標準見積書の活用により、法定福利費の確保を図りましょう！

本号の主な内容

2面 【特集】委員会報告

技術委員会研修報告 熊本城の被災状況と復旧作業などを視察
技術委員会 技術・技能部会 人材育成研修会を沖縄総支部で開催

3面 女性活躍推進部会の足跡— A rolling stone gathers no moss. —

【学会の目・眼・芽】ジオパークとランドスケープの発想・技術
(公財)日本造園学会理事・長崎大学大学院水産・環境科学総合研究所教授 渡辺貴史

4面 【ふるさと自慢】福岡県 藤原未有(柳中村緑地建設)

水と空気が自慢の那珂川町 夏の中ノ島公園と通年の直売所に注目

【緑滴】鳥取県支部 德田唯(柳中村緑地建設)

可愛らしい姿と仕草…虫は心の癒やし

樹林

(一社)日本造園建設業協会九州総支部長
木上梅香園(株) 代表取締役会長 木上正貢

熊本地震からの復興支援に
造園業界としてどう携わるか

ているところです。

我々も熊本県造園連絡協議会(蓑茂壽太郎会長)から若手を中心に熊本地震復興支援造園研究会立ち上げ、ボランティアや勉強会から活動を始め、熊本城現場視察及び研修会にも参加し、来るべき石垣復旧工事のため研鑽を積んでおります。

石垣の積み直しに特定の資格は必要ないというが、石垣は安山岩を使用しているため、石垣と同じ材質である安山岩を扱う数少ない業種である造園業者は石垣工事では必ず活躍するであろうと期待されているわけです。

◆
皆様もご存知の通り、前震と本震により国特別史跡で建造物に重要文化財が多い熊本城もかなり酷いダメージを受けました。

◆
テレビ等でご覧になった方もいると思いますが、天守閣の入り口台座や飯田丸など6ヶ所の石垣崩落、長堀・東十八間櫓・北十八間櫓が倒壊、不開門はゆがみで開閉できず、ほかにも国重要文化財の建造物に被害が多数見られています。

◆
熊本城は明治22年に起きたマグニチュード(M)6.3の熊本地震でも大きな被害が出ており、今回の地震とその被害の実に8割が重複しているということです。

◆
明治に被害を受けた石垣は旧陸軍の修復でしたが、大きな石の隙間に小さな石を詰めていないなど、地震対策が不十分だった可能性も指摘されています。

◆
また、今回の平成28年熊本地震(前震M6.5、本震M7.3)での石垣被害は、明治の地震の約2.7倍にあたる2万3600m²で確認されています。

◆
日造協から来熊の折、大西一史熊本市长にお会いいただき、熊本城の石垣の復旧に対する支援要請を受け、ぜひとも我が業界でお役に立ちたいと願つ

◆
の方々に楽しんでいただき、国立公園の価値や利用を高めていきたい。造園界のお力添えをいただきたい」と述べた。

藤巻会長が造園界の飛躍を祈念し乾杯

◆
酒樽による鏡開きは、各界を代表して11名が壇上に上り行われ、乾杯の発声は産業界を代表して、藤巻司郎日造協会会長が「今日は大勢の皆さんと新年を迎えたことを感謝申し上げます。さて、東京オリンピックは、開催まで2年となってまいりました。また、海外の日本庭園再生プロジェクト、国際園芸博覧会

◆
の誘致なども進んでいます。今年は、造園界にとりまして発展、飛躍の年となるよう、合わせて皆様方のご健勝とご多幸を祈念して、乾杯したいと思います」と「乾杯」を発声、懇談の場となった。

◆
集いでは、途中、内田裕郎(一社)日本公園施設業協会会長、奥洋彦(一社)日本運動施設建設業協会代表理事、大橋尚美全国女性造園技術者の会副会長が挨拶。最後に、枝吉茂種(一社)ランドスケープコンサルタント協会会長が集いの女性参加者の方々とともに三本締めを行い(写真)散会した。



技術委員会研修報告

熊本城の被災状況と復旧作業などを視察

平成29年12月12日に熊本市内で技術委員会を開催し、翌13日に熊本市内と熊本城の視察を行いましたので報告します。なお、今回の開催に際し、九州総支部ならびに熊本県支部の方々には多大なるご協力を頂きました。誠にありがとうございました。



技術委員会の様子

白川緑道立曳きクスノキ

熊本における視察地の一つとして、6年前の造園技術フォーラムで紹介した立曳きによる大径木移植（クスノキ2本）の現地観察が取り上げられた。

今回は、工法の説明はもとより、どのような経緯で立曳き工法を選定したか、またこの技術がどのように記録として残されているかを、施工者である伊勢造園建設株式会社専務取締役の山隈昌彦氏より詳細な説明を受けた。

その中で特に印象的だったのは、九州で初めての立曳きを行うということで、マスコミを含め地元の方々及び小学生を巻き込んでのイベントとなり、その舞台で樹木や景観を守ることの大切さ、さらにそれを実現した造園の技術力を広く一般にアピールできたことの説明であった。



施工した山隈昌彦伊勢造園建設株式会社専務取締役から説明をいただいた

また、現地の脇に施工時の陶版写真、陶版絵画が記念プレートとして記念碑や擁壁に埋め込まれており、記録として大切にされているのが伝わってきた。

現状のクスノキは、移植一年後に豪雨で1mほど冠水したにもかかわらず、立派に生育しており改めて造園力を確信した視察となった。

技術副委員長 松本 透

熊本城

今回の技術委員会のコアな見学箇所である熊本城の被災状況と復旧作業を視察した。

前日に熊本市の経済観光局熊本城総合事務所長 津曲俊博氏より概要をご説明いただき、当日は同局 熊本城調査研究

センター副所長 綱田龍生氏により現地を案内頂いた。

やはり、日頃報道で目にすることと実際に現地で感じるものとは雲泥の差であり衝撃さえ感じた。マスコミは天守閣部分しか写さないが、現実は崩壊箇所8,200m²（全体の10%）膨らみ・緩み箇所23,600m²（全体の30%）と想像を超える量である。

東日本大震災で仙台城では1,200m²の石垣修復が工期2年7か月を費やした。

加藤清正による石の要塞であったこの熊本城は、広大な城壁が張り巡らされその分被害も多かったと思われる。

復旧するには20年かかると言われているが、目途を決めて絶対に復旧してみせるという気概と技術者が必要であり、我々造園業界が「石の結束」で結集しないと成しないのではないか。

被災地に出向き状況を目で確かめて、それを伝え行動することが復旧復興を進ませることになる。今回、当委員会は熊本城に導かれたのかも知れない。

東北総支部
技術委員
石出 慎一郎



熊本城の視察は、前日に津曲俊博熊本市経済観光局熊本城総合事務所長、当日は綱田龍生同局熊本城調査研究センター副所長に案内頂いた

に「造園施工に携わる技術者を対象とした人材育成研修会（以下、人材育成研修会）」を実施することといたしました。

その第一弾として各技法編を学ぶ基礎知識の「基礎編」と「配植技法編」の教材を作成し、12月14日に沖縄総支部において



人材育成研修会は、第一弾として各技法編を学ぶ基礎知識の「基礎編」と「配植技法編」の教材を作成して実施した

人材育成研修会を実施しました。19名が受講し、そのうち11名が指導員の課程を修了しました。

この研修を通して、先人たちが培ってきた技術・技能を継承して、造園工事の多様化や高度化に対応できる技術者が増

えることを期待しています。

なお、今後は「剪定技法編」「石工事技法編」「移植技法編」など各種技法編を追加していく予定です。

技術委員会 技術・技能部会長
松本 透

技術委員会 技術・技能部会 人材育成研修会を沖縄総支部で開催

造園業界は、他の建設業と同様に技術・技能者の高齢化、若年入職者の減少と新規入職者の離職により技術・技能の承継が困難になる等の構造的な問題が顕



人材育成研修会の様子

在化しており、その対応が喫緊の課題となっています。

そこで、技術委員会の技術・技能部会では、造園施工現場の第一線で施工管理に携わる技術者を対象に、造園工事の代表的な工種について善し悪しの判断ができる眼を培うことを目的に、緑のストックの健全な育成に資するための技術者を養成するため、計画的・継続的

女性活躍推進部会の足跡

— A rolling stone gathers no moss. —

女性活躍推進部会会長 酒井 一江

部会は早いもので3年が経過しました。昨年を振り返ると3カ所の総支部からオファーをいただき、女性活躍の現状を講演し、活躍する女性たちとお会いして元気をいただきました。また造園・環境緑化産業振興会開催のシンポジウムへは部会員の参加要請をいただきましたなど、部会員共々多くの経験をさせていただきました。お声かけは断らないのが当部会の特徴ですので、お声かけください。

勉強会「京都の伝統技術を学ぼう！2017」

昨年は部会員からの提案により京都での部会と勉強会を実現しました。

近畿の小林部会員が中心で企画を作り、近畿総支部会員会社からも多数の女性の参加を得て交流の機会が実現しました。

女性ばかりの喧しい飲み会に男性一人参加の小林総支部長は「こんなん、知らんで～！」と酔えない飲み会。お疲れさまでした！

勉強会は名刹大徳寺孤篷庵、本山および圓通寺を拝観し、大徳寺の松の手入れも見せていただきました。

また、伝統の竹の加工技法として枝折戸、金閣寺垣、井戸蓋の製作技術を拝見しました。

いずれも近畿総支部長小林造園社長には丸2日お世話になりました。

改めて感謝いたします。製作に参加できるようになります。



京都の勉強会（孤篷庵入り口にて）



京都の勉強会（枝折戸製作見学）

「造園建設業の仕事入門」の作成と活用

一昨年の「女子力アップで二人三脚ワーキング」に続き、「造園建設業の仕事入門」の小冊子を作成いたしました。なんと、総カラー！！部会員は、わかり易いビジュアルを願っていましたので大感激の仕上がりです。

担い手となる方々への理解を深めることを目的として作成しましたので、インターンシップの実施などにご活用いただけると思います。

また、関係の高校や大学がありましたら、是非、紹介と活用の働きかけをお願



学会の目・眼・芽 第89回

ジオパークとランドスケープの発想・技術

(公社)日本造園学会理事・長崎大学大学院水産・環境科学総合研究科教授 渡辺 貴史

2017年10月25日～27日、秋田県男鹿市と大潟村では、第8回日本ジオパーク全国大会2017が開催された。大会には、著者を含む全国の約1,000人近くのジオパーク関係者が参加した。

参加者は、各ジオパークの活動紹介や会場近くにある男鹿半島・大潟ジオパークの見学などを通じて、交流を深めた。

◆
我が国に34箇所があるジオパークとは、国際連合教育科学文化機関(UNESCO)が関わる事業の一つであり、「大地の遺産」と呼ばれる地学(地形・

地質・土壤)、自然(植生・動物)・文化資源(産業・暮らし)を用いた教育とツーリズムにより持続可能な地域をつくりだそうとするプログラムのことである。

持続可能な地域づくりに役立つジオパークとするためには、ジオパークにある見どころ(ジオサイト)にその魅力をひきだす物語(ジオストーリー)をつくりだし、それらを観光客や地域住民にわかりやすく伝えることが重要である。

◆
たとえば、島原半島ジオパークのジオサイトの一つである長崎県雲仙市の小浜温泉では、ガイドの説明を受けつつ、



京都勉強会での参加者全員集合写真

いします。

この中には働く女性たちの取材記を掲載していますが、男性もというご希望があり、新年最初にお願いをしたのが「男

前募集」の企画です。

沢山のご応募を部会員一同、首を長くしてお待ちしています。

農業高校訪問

農業高校へは3校伺いました。

1校目は宇部西高校。2校目の岩見沢農業高校は、毎年、大場造園社長が出前講座に出向いておられ、昨年は「造園建設業の仕事入門」を活用した講座にしたいとのことで、生徒さんの反応を知りたく、大場社長のおまけで同行しました。

この講座参加の全生徒から感想とお礼の手紙をいただきました。中には女子も造園の仕事があることを知ったという女



熊谷農業高校の二人の先生と面談



岩見沢農業高校の出前講座

子生徒の感想があり、今後は担い手の対象となる若い方々への広報力の必要を痛感しました。

3校目の熊谷農業高校は、阪上部会員の会社に女性の先生が研修にいらっしゃり、そのご縁で学校へ伺いました。

とてもパワーと柔軟性を感じるチャーミングな先生とのお話は盛り上がりました。

部会員たちはローリングストーンズ

さて、ローリングストーンズは、かの有名なイギリスのロックバンドですが、我が部会のメンバーはよく働き、よく語り、時には発言がロックな面々。苔など

生えようもないピカピカのローリングストーンズ！です。これからの活躍をご期待ください。

近くのマグマによって熱せられて湧き出してきた多様な泉質の泉源や湧水をめぐり、その温泉水を活用した足湯につかりながら、温泉水を用いてつくれたさまざまな食べ物(温泉卵・蒸し野菜等)を食べるプログラムなどがある。

◆
プログラムのイメージとしては、NHKの人気番組の一つである「ブラタモリ」が近いだろうか。

より良いプログラムの開発には、「ブラタモリ」にみられる通り、地域にあるさまざまな資源の特徴や資源間の関係を読み込んで、それを活かして魅力的なものをつくるランドスケープの発想と技術が欠かせない。ランドスケープ分野にとってのジオパークとは、その発想と技術を大いに発揮できる場の

一つといえるだろう。

◆
しかしながら、筆者が比較的良く知っている学術に限っては、地理学・地質学からの発信こそ良くみられるものの、ランドスケープ分野からの発信は多いといえない。

ジオパークには、より良いプログラムの開発、ガイドの育成、そしてさまざまな人と組織の協働といった多くの課題がある。こうした課題に対して長い時間にわたって築き上げられてきたランドスケープ分野の発想と技術は、課題を解消させ持続可能な地域をつくりあげることに役立つはずである。

まずは、どのように役立てられるかを考えるために、皆さんのお住まいの近くにあるジオパークにお出かけになられてはいかがであろうか。

ふる
さと
自慢
福岡県

水と空気が自慢の那珂川町と通年の直売所に注目



私のふるさとは福岡県の中西部にある、きれいな水とおいしい空気が自慢の那珂川町です。

豊かな自然に囲まれた町ですが、福岡市の中心部「天神」へは車で30分。博多南駅からは博多駅まで新幹線で9分。交通アクセスも不便なくとても住みやすい町です。

そんな那珂川町の自然と触れあえる癒しスポットをご紹介したいと思います。

町に流れる那珂川上流にある「中ノ島公園」。自然にできた中洲をそのまま活かした公園で、夏から秋にかけて水遊びや紅葉狩りを楽しめます。写真では分かりづらいですがとにかく流れる水が綺麗！

しかし、今回筆者が訪れた時期は冬。清流を楽しむにはまだ早すぎました…とりあえず寒かったです。ということで、おすすめはやはり夏！ですが、敷地内には年中楽しめる生産物直売所もあります。

那珂川町産の米、旬の野菜や果物などの農産物、加工品やお惣菜などを販売しています。

その中に那珂川町の特産物であるヤーコンも販売されています。



中ノ島公園⑤と周辺の様子⑤

聞きなれない方も多いと思いますが、元は南米アンデス高地原産のキク科の植物で、見た目はサツマイモの様ですが、切ってみると大根やナシのような透明感がある食材です。フラクトオリゴ糖・食物繊維・カリウム・ポリフェノールなどが多く、健康野菜として大注目の食材です。

ヤーコンを使ったおすすめ調理メニューとして、まずはきんぴらです。

にんじんと一緒に炒めて醤油とみりんのみの味付けですが、ヤーコンの優しい甘みとシャキシャキとした食感が楽しめます。

次にヤーコンの豚ひき肉ハンバーグです。玉ねぎのかわりにたくさんのヤーコンを入れて、食感のよいさっぱりとしたハンバーグです。

その他、ヤーコンは生でも食べられる食材なのでサラダにもおすすめです。

ヤーコンの葉や茎を使った「ヤーコン茶」も直売所では販売しています。



直売所



ヤーコン



きんぴら



ハンバーグ



ヤーコン茶

初めて飲んでみましたが、ん~苦いっ！！飲めば高血圧予防、整腸作用、総コレステロールや中性脂肪の低下を促します。飲んで慣れればこの苦みもクセになりそう。

ぜひ福岡県にお越しの際は、豊かな自然とその環境で育ったおいしい食べ物を堪能しに那珂川町にも遊びに来てください。

藤原 未有 (株)中村緑地建設



自分は虫が好きで、よく仕事の休憩時間にも捕まえたりします。

上司からは、「奇人」「変人」と言われますが、お構いなしです。

虫嫌いの方が多いだけで、嫌うことが当たり前ではありません。おかしいことはないと思います。



可愛らしい姿と仕草…虫は心の癒やし

それはさておき、作業をしているときでも、虫に遭遇することは多々あり、仕事なので我慢していますが、虫が踏まれるなどにいると、ついつい手が出てしまします。

いつも周りに気づかれないように、安全な場所に移動させています。

上司に見つかったら怒られそうですね。でも、命には代えられないで…。



虫は、自分にとって癒やしです。可愛らしい姿に、可愛らしい仕草は、この上ないです。

仕事場で、とても可愛らしいカマキリを見つけました。コカマキリよりもまだ小さく、調べたところ「ヒメカマキリ」と言っています。



このヒメカマキリは、他のカマキリでは見たことがない"死んだふり"をします。

他にも変わった動きをしていて、自然に返すのが名残惜しかったです。

このように新しい発見があると楽しく、嬉しいです。



この上なく可愛らしい虫たち

しかし、側溝掃除で見つかることもあって、そのときは驚き、嬉しかったです。次の夏は側溝で虫採りです。

他にサザンカの生け垣にあった竹の支柱を撤去することになり、そのやり方として、上司が生け垣に手を入れ、竹を持ち上げた瞬間、数匹の蜂が飛び出していました。蜂もピックリ、こちらもピックリ、全力疾走しました。とにかく逃げる！気がつけば法面を走っており、「地下足袋ってすごいなっ」と思いました。

「こういう生け垣に蜂の巣があったりしてな」と、上司が言ってすぐの出来事で、鼻先で笑ってしまいましたが、ともあれ、上司も無事で何よりでした。

虫においても、仕事においても充実した日々を過ごしていますが、虫は自分の心の癒やしなので、これからも気づかれないように逃したり、新たな発見を見つけながら仕事もより一層頑張っていきたいです。